

# 古文ドリル：「ず」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

## はじめに：「ず」の正体

打消の助動詞「ず」は、**未然形接続**。活用が変則的なので、活用形を見抜く問題が多い。

活用形	「ず」の形	用例
未然形	ず／ざら	知ら <b>ず</b> して／知ら <b>ざら</b> む
連用形	ず／ざり	知ら <b>ず</b> けり／知ら <b>ざり</b> けり
終止形	ず	知ら <b>ず</b> 。
連体形	ぬ／ざる	知ら <b>ぬ</b> 人／知ら <b>ざる</b> 人
已然形	ね／ざれ	知ら <b>ね</b> ば／知ら <b>ざれ</b> ば
命令形	ざれ	知ら <b>ざれ</b> ！

### 識別の鉄則

1. 直前は必ず未然形
2. 直後を見る：
3. 体言 → 連体形「ぬ／ざる」
4. 「て・して」 → 連用形「ず／ざり」
5. 「ば」 → 已然形「ね／ざれ」（已然+ば=原因・確定）
6. 文末・句点 → 終止形「ず」

## 🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

### コツ① 「ず／ぬ／ね／ざり／ざる／ざれ」を見たら直後で活用形が即決

打消「ず」の活用形判定は、**直後の語** だけ見れば9割当たる。 - +体言 → **連体形**「ぬ／ざる」（知らぬ人／知らざる人） - +ば → **已然形**「ね／ざれ」（知らねば／知らざれば） - +して／+けり → **連用形**「ず／ざり」（知らずして／知らざりけり） - +句点 → **終止形**「ず」（知らず。）

「直後で何が来てるか」だけ見れば即答できる。

### コツ② 「ぬ」が来たら直前で打消か完了かを即判定

「ぬ」は **打消「ず」連体形** と **完了の助動詞「ぬ」終止形** の2パターン。 - 未然形+ぬ → 打消「ず」連体形 (散らぬ花=散らない花) - **連用形+ぬ** → 完了「ぬ」終止形 (散りぬ=散ってしまった)

四段動詞で「散らぬ／散りぬ」のように **直前の母音が違う** ことに注目すれば一発で見抜ける。

### コツ③ 「ね」も同じく直前で2パターン

「ね」も **打消「ず」已然形** と **完了「ぬ」命令形** の2つ。 - 未然形+ね → 打消已然形 (知らねば=知らないの) - 連用形+ね → 完了命令形 (疾く去りね=早く去ってしまえ)

「～ねば」の形なら99%打消。「～よ／～命令」の文脈なら完了命令。

### コツ④ 「ざり」系は連用形・命令形・補助活用と覚える

「ざり・ざる・ざれ」は **補助活用** (ザリ活用)。 - ざり → 連用形 (～ざりけり) - ざる → 連体形 (～ざる人) - ざれ → 已然形 (～ざれば) / 命令形 (～ざれ!)

「ざ」が見えたら補助活用と即認識する。

### 試験本番でのチェック順序

1. 「ず／ぬ／ね／ざ系」を見たら **直後** をチェック
2. 直後の語で活用形を確定 (体言→連体、ば→已然、句点→終止、して→連用)
3. 「ぬ／ね」は **直前** が未然形か連用形かで打消／完了を区別
4. 「ざ系」は補助活用と即認識して活用形だけ判定

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

### よくある引っかけ

- 「散りぬ」を打消と誤答 (連用+ぬ=完了)
- 「散らぬ」を完了と誤答 (未然+ぬ=打消連体形)
- 「～ね!」を打消已然と誤答 (命令文脈なら完了「ぬ」命令形)
- 「ざる」「ざれ」を「ぞ」「ば」の係り結びと混同する

## 採点表

- 基礎 (Q1～Q20) : /20
- 標準 (Q21～Q50) : /30
- 応用 (Q51～Q80) : /30

- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

## 【第1部】基礎編

Q1. 次の傍線部「ず」の活用形を答えよ。

我れ知らず。

答え : 終止形 解説 : 文末・句点。「私は知らない」。

Q2. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

物言はぬ人。

答え : 打消の助動詞「ず」連体形「ぬ」 解説 : 「言は」未然 + 「ぬ」 + 体言「人」。連体形。「物を言わない人」。

Q3. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

知らねば、答へず。

答え : 打消の助動詞「ず」已然形「ね」 解説 : 「知ら」未然 + 「ね」 + 「ば」(原因)。「知らないので、答えない」。

Q4. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

物言はずして、立ち去る。

答え : 連用形 解説 : 「言は」未然 + 「ず」 + 「して」(接続助詞、連用接続)。「物を言わないで、立ち去る」。

Q5. 次の傍線部「ざり」を識別せよ。

知らざりけり。

答え : 連用形「ざり」 解説 : 「知ら」未然 + 「ざり」 + 過去「けり」。「知らなかった」。

Q6. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

花咲かぬ夜。

答え：打消連体形「ぬ」 解説：「咲か」未然＋「ぬ」＋体言「夜」。「花が咲かない夜」。

---

Q7. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

思はねど、口に出す。

答え：打消已然形「ね」 解説：「思は」未然＋「ね」＋「ど」(逆接)。「思わないけれども、口に出す」。

---

Q8. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

雨降らず。

答え：終止形 解説：文末。「雨が降らない」。

---

Q9. 次の傍線部「ざる」を識別せよ。

知らざる人。

答え：打消連体形「ざる」 解説：「知ら」未然＋「ざる」＋体言「人」。「知らない人」。

---

Q10. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

食はずして、寝ぬ。

答え：連用形 解説：「食は」未然＋「ず」＋「して」。「食べないで、眠った」。

---

Q11. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

寝られぬ夜。

答え：打消「ず」連体形「ぬ」 解説：下二段「寝(ぬ)」未然形「ね」＋可能「らる」未然形「られ」＋打消「ず」連体形「ぬ」＋体言「夜」。「眠れない夜」。体言の前なので連体形「ぬ」。「らる」の活用：られ・られ・らる・らるる・らるれ・られよ。

---

Q12. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

来ねば、待つ。

答え：打消已然形「ね」 or 完了「ぬ」已然形「ね」 解説：「来」が未然「こ」なら打消「来ねば（来ないので）」、連用「き」なら完了「来てしまったので」。文意で判断。

Q13. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

我れ仕うまつらず。

答え：終止形 解説：文末。「私はお仕えしない」。

Q14. 次の傍線部「ざれば」を識別せよ。

知らざれば、答へず。

答え：打消已然形「ざれば」 解説：「知ら」未然＋「ざれば」＋「ば」。「知らないので、答えない」。

Q15. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

嵐山に登らぬ人。

答え：打消連体形「ぬ」 解説：「登ら」未然＋「ぬ」＋体言「人」。「嵐山に登らない人」。

Q16. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

いまだ書かず。

答え：終止形 解説：文末。「まだ書かない」。

Q17. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

終夜（よもすがら）思ひに沈みて寝ねど、夢は見ず。

答え：下二段動詞「寝」の已然形「ね」 解説：下二段「寝（ぬ）」の活用は「ね／ね／ぬ／ぬる／ぬれ／ねよ」だが、ここでは「ねど」と表記して動詞「寝」の意味で用いる例。標準的な下二段已然形は「ぬれ」なので「寝ぬれど」とも書くが、「ねど」表記も見られる。「終夜もの思いに沈んで眠らないけれど、夢を見ない」と訳す。打消「ず」已然形「ね」と紛らわしい。

Q18. 次の傍線部「ず」を識別せよ。

風吹かず、波静かなり。

答え：終止形 (or 連用形) 解説：句点ありなら終止、なければ連用。「風が吹かず、波が静かだ」。

Q19. 次の傍線部「ぬ」を識別せよ。

月見ぬ人、世になし。

答え：打消連体形「ぬ」 解説：「見」上一段未然＋「ぬ」＋体言「人」。「月を見ない人は、世にいない」。

Q20. 次の傍線部「ね」を識別せよ。

言はねばこそ、奥ゆかしけれ。

答え：打消已然形「ね」 解説：「言は」未然＋「ね」＋「ばこそ」(強調)。「言わないからこそ、奥ゆかしい」。

基礎編 / 20

## 【第2部】標準編

Q21. 「ず」を識別せよ。

行かず、ただ立ち止まる。

答え：連用形 解説：「ず」＋動詞「立ち止まる」(中止法)。

Q22. 「ぬ」を識別せよ。

春来たらぬ山。

答え：打消連体形「ぬ」 解説：「来た」(来連用)＋「らぬ」(らず連体)＋体言「山」。

Q23. 「ね」を識別せよ。

物食はねば、痩せたり。

答え：打消已然形 解説：「食は」未然＋「ね」＋「ば」。

---

Q24. 「ざり」を識別せよ。

知らざりしを、嘆く。

答え：連用形「ざり」 解説：「ざり」＋過去「き」連体「し」＋準体「を」。

---

Q25. 「ず」を識別せよ。

我れ思はず。

答え：終止形 解説：文末。

---

Q26. 「ざる」を識別せよ。

心ある人にあらざるを、嘆く。

答え：連体形「ざる」 解説：「あら」未然＋「ざる」＋準体「を」。

---

Q27. 「ず」を識別せよ。

仕うまつらずして、退き出づ。

答え：連用形 解説：「ず」＋「して」。

---

Q28. 「ぬ」を識別せよ。

言はぬことを、聞く。

答え：打消連体形「ぬ」 解説：「言は」未然＋「ぬ」＋体言「こと」。

---

Q29. 「ざれば」を識別せよ。

知らざれば、教ふ。

答え：已然形 解説：「ざれ」 + 「ば」。

---

Q30. 「ず」を識別せよ。

我れも来ず。

答え：終止形 解説：文末。

---

Q31. 「ね」を識別せよ。

行かねば、ここに居る。

答え：打消已然形 解説：「行か」未然 + 「ね」 + 「ば」。

---

Q32. 「ぬ」を識別せよ。

月見ぬ夜は、なほさうごうし。

答え：打消連体形 解説：「見」未然 + 「ぬ」 + 体言「夜」。

---

Q33. 「ざり」を識別せよ。

雨降らざりつる夜半。

答え：連用形 解説：「ざり」 + 完了「つる」連体形 + 体言「夜半」。

---

Q34. 「ず」を識別せよ。

詠まずして、心定まりぬ。

答え：連用形 解説：「ず」 + 「して」。

---

Q35. 「ね」を識別せよ。

物言はねど、目に物言ふ。

答え：打消已然形 解説：「言は」未然 + 「ね」 + 「ど」(逆接)。

---

Q36. 「ざる」を識別せよ。

心通はざる人。

答え：打消連体形 解説：「通は」未然＋「ざる」＋体言「人」。

---

Q37. 「ず」を識別せよ。

来ずして、待ちぬ。

答え：連用形 解説：「ず」＋「して」。

---

Q38. 「ぬ」を識別せよ。

名乗らぬ人ぞ怪し。

答え：打消連体形 解説：「名乗ら」未然＋「ぬ」＋体言「人」＋係助詞「ぞ」＋形容詞已然「怪しけれ」(連体結び)。

---

Q39. 「ね」を識別せよ。

知り給はねば、教ふべし。

答え：打消已然形 解説：「給は」未然＋「ね」＋「ば」。

---

Q40. 「ざれ」を識別せよ。

心ある人にあらざれば、これを解せず。

答え：已然形 解説：「あら」未然＋「ざれ」＋「ば」。

---

Q41. 「ず」を識別せよ。

我れ語らずして、退く。

答え：連用形 解説：「ず」＋「して」。

---

Q42. 「ぬ」を識別せよ。

あらはれぬ人。

答え：打消「ず」連体形「ぬ」 解説：下二段「あらはる（現る）」未然形「あらはれ」＋打消「ず」連体形「ぬ」＋体言「人」。「姿を現さない人／露見しない人」。体言の前なので連体形「ぬ」。

---

Q43. 「ざる」を識別せよ。

心定まらざるを、嘆く。

答え：連体形 解説：「定まら」未然＋「ざる」＋準体「を」。

---

Q44. 「ね」を識別せよ。

我れ知らねばこそ、なほ恋し。

答え：打消已然形 解説：「知ら」未然＋「ね」＋「ばこそ」（強調）。

---

Q45. 「ず」を識別せよ。

いまだ起きず。

答え：終止形 解説：文末。

---

Q46. 「ぬ」を識別せよ。

都に住まぬ人ら。

答え：打消連体形 解説：「住ま」未然＋「ぬ」＋体言「人ら」。

---

Q47. 「ざり」を識別せよ。

物食はざりけれども、太れり。

答え：連用形 解説：「ざり」＋過去「けり」已然＋逆接「ども」。

---

Q48. 「ず」を識別せよ。

風吹か<sup>ず</sup>して、舟止まる。

答え：連用形 解説：「ず」 + 「して」。

Q49. 「ね」を識別せよ。

月隠れ<sup>ね</sup>ば、なほ明し。

答え：打消已然形 or 完了已然形 解説：「隠れ」未然なら打消、連用なら完了。文意「隠れない」or 「隠れた」。

Q50. 「ざる」を識別せよ。

心通は<sup>ざる</sup>ものなり。

答え：連体形 解説：「通は」未然 + 「ざる」 + 体言「もの」。

標準編 / 30

## 【第3部】 応用編

Q51. 「ず」を識別せよ。

行く川のながれは絶え<sup>ず</sup>して、しかも、もとの水にあらず。

答え：連用形 解説：方丈記冒頭。「ず」 + 「して」(連用接続)。

Q52. 「ぬ」を識別せよ。

知ら<sup>ぬ</sup>間に春は来にけり。

答え：打消連体形 解説：「知ら」未然 + 「ぬ」 + 体言「間」。

**Q53. 「ね」を識別せよ。**

言はねばこそありけれ。

答え：打消已然形 解説：「言は」未然＋「ね」＋「ばこそ」＋ラ変已然「ありけれ」。

---

**Q54. 「ざり」を識別せよ。**

思ひもよらざりけるを、嘆く。

答え：連用形 解説：四段動詞「思ひもよる」未然形「思ひもよら」＋打消「ず」のザリ系列連用形「ざり」＋過去「けり」連体形＋準体「を」。「思ひもよらなかつたことを嘆く」。

---

**Q55. 「ず」を識別せよ。**

我れ仕うまつらずして、退きいづ。

答え：連用形 解説：「ず」＋「して」。

---

**Q56. 「ぬ」を識別せよ。**

風吹かぬ夜、月清く照る。

答え：打消連体形 解説：「吹か」未然＋「ぬ」＋体言「夜」。

---

**Q57. 「ね」を識別せよ。**

心ある人にあらねば、これを解せず。

答え：打消已然形 解説：「あら」未然＋「ね」＋「ば」。

---

**Q58. 「ざる」を識別せよ。**

嵐の風吹かざる夜、なほ恐し。

答え：連体形 解説：「吹か」未然＋「ざる」＋体言「夜」。

---

Q59. 「ず」を識別せよ。

雨やまずして、川あふる。

答え：連用形 解説：「ず」 + 「して」。

---

Q60. 「ぬ」を識別せよ。

我れ詠まぬを、人皆怪しむ。

答え：打消連体形 解説：「詠ま」未然 + 「ぬ」 + 準体「を」。

---

Q61. 「ね」を識別せよ。

思はざるにしもあらねば、口に出す。

答え：打消已然形 解説：「あら」未然 + 「ね」 + 「ば」。

---

Q62. 「ざれ」を識別せよ。

物食はざれば、痩す。

答え：已然形 解説：「食は」未然 + 「ざれ」 + 「ば」。

---

Q63. 「ず」を識別せよ。

心ある人にあらずは、これを解せず。

答え：連用形 解説：「あら」未然 + 「ず」 + 「は」(假定)。

---

Q64. 「ぬ」を識別せよ。

物のあはれを知らぬ人にあらず。

答え：打消連体形 解説：「知ら」未然 + 「ぬ」 + 体言「人」。

---

Q65. 「ね」を識別せよ。

君行かねば、待ちわぶ。

答え：打消已然形 解説：「行か」未然＋「ね」＋「ば」。

---

Q66. 「ざり」を識別せよ。

詠まざりしを嘆く。

答え：連用形 解説：「ざり」＋過去「き」連体「し」＋準体「を」。

---

Q67. 「ず」を識別せよ。

我れ仕うまつらず。

答え：終止形 解説：文末。

---

Q68. 「ぬ」を識別せよ。

唐土に渡らぬ人ら。

答え：打消連体形 解説：「渡ら」未然＋「ぬ」＋体言「人ら」。

---

Q69. 「ね」を識別せよ。

心の奥を知らねば、信ず。

答え：打消已然形 解説：「知ら」未然＋「ね」＋「ば」。

---

Q70. 「ざる」を識別せよ。

物のあはれを解せざる人にあらず。

答え：打消連体形 解説：「解せ」（サ変未然）＋「ざる」＋体言「人」。

---

Q71. 「ず」を識別せよ。

風吹かず波荒からず。

答え：終止形 解説：「風吹かず（連用）、波荒からず（終止）」。

---

Q72. 「ぬ」を識別せよ。

いまだ知らぬことぞ多き。

答え：打消連体形 解説：「知ら」未然＋「ぬ」＋体言「こと」。

---

Q73. 「ね」を識別せよ。

嵐山に登らねば、紅葉を見ず。

答え：打消已然形 解説：「登ら」未然＋「ね」＋「ば」。

---

Q74. 「ざり」を識別せよ。

心ありし人ならぬもとの世。

答え：(複雑) 打消「ぬ」連体形 解説：「ならぬ」(ぬ=連体)。

---

Q75. 「ず」を識別せよ。

名乗らずして、立ち去りぬ。

答え：連用形 解説：「ず」＋「して」。

---

Q76. 「ぬ」を識別せよ。

物のあはれを知らぬ身。

答え：打消連体形 解説：「知ら」未然＋「ぬ」＋体言「身」。

---

Q77. 「ね」を識別せよ。

仏に祈らねど、心安し。

答え：打消已然形 解説：「祈ら」未然＋「ね」＋「ど」(逆接)。

---

Q78. 「ざる」を識別せよ。

風吹かざる夜、なほ波静か。

答え：打消連体形 解説：「吹か」未然＋「ざる」＋体言「夜」。

Q79. 「ず」を識別せよ。

我れ詠ま<sup>ず</sup>して、口を閉づ。

答え：連用形 解説：「ず」＋「して」。

Q80. 「ぬ」を識別せよ。

心通は<sup>ぬ</sup>を嘆く。

答え：打消連体形 解説：「通は」未然＋「ぬ」＋準体「を」。

応用編 / 30

## 【第4部】入試レベル

Q81. 「ぬ」を識別せよ。

仁和寺にある法師、年寄るまで、石清水を拝ま<sup>ざり</sup>ければ、心うく覚えて、ある時思ひ立ちて、ただ一人、徒歩より詣でけり。

答え：(参考、「ざり」＝打消連用形) 注釈：徒然草「仁和寺の法師」段。

Q82. 「ね」を識別せよ。

月の都の人にしあら<sup>ね</sup>ば、いかでかかかる目に遭はむ。

答え：打消已然形 解説：「あら」未然＋「ね」＋「ば」。「月の都の人ではないので、どうしてこんな目に遭おうか」。

Q83. 「ず」を識別せよ。

物のあはれを知ら<sup>ぬ</sup>人にあらず。

答え：終止形 解説：「あら」未然＋「ず」。「物のあわれを知らない人ではない」。

Q84. 「ぬ」を識別せよ。

知らぬを知らずとせよ。

答え：打消連体形 解説：「知ら」未然＋「ぬ」＋準体「を」。「知らないことを知らないとせよ」（論語の言葉）。

Q85. 「ね」を識別せよ。

心ある人にあらねばこそ、これを解せず。

答え：打消已然形 解説：「あら」未然＋「ね」＋「ばこそ」。「心ある人ではないからこそ、これを解さない」。

Q86. 「ぬ」を識別せよ。

月の出でぬ夜、なほ暗し。

答え：打消「ず」連体形「ぬ」 解説：下二段「出づ」未然形「出で」＋打消「ず」連体形「ぬ」＋体言「夜」。「月が出ない夜は、なお暗い」。体言の前なので連体形「ぬ」（已然形「ね」と混同しない）。打消「ず」の活用：ず・ず・ず・ぬ・ね・〇。

Q87. 「ざり」を識別せよ。

物食はざりしことを、後悔す。

答え：連用形 解説：「ざり」＋過去「き」連体「し」＋体言「こと」。

Q88. 「ぬ」を識別せよ。

仕うまつらぬこと、限りなし。

答え：打消連体形 解説：「仕うまつら」未然＋「ぬ」＋体言「こと」。

Q89. 「ね」を識別せよ。

仏に祈らねば、誰にか頼まむ。

答え：打消已然形 解説：「祈ら」未然＋「ね」＋「ば」(原因)。「仏に祈らないので、誰に頼もうか」。

---

Q90. 「ざる」を識別せよ。

心ある人にあらざるを嘆く。

答え：連体形 解説：「あら」未然＋「ざる」＋準体「を」。

---

Q91. 「ず」を識別せよ。

行く川のながれは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。

答え：連用形 解説：方丈記。「絶え」＋「ず」＋「して」。

---

Q92. 「ぬ」を識別せよ。

心の奥を見せぬ人、世に多し。

答え：打消連体形 解説：「見せ」(下二段未然)＋「ぬ」＋体言「人」。

---

Q93. 「ね」を識別せよ。

嵐の音絶えねば、なほ夜更けず。

答え：打消已然形 or 完了已然形 解説：「絶え」(下二段連用or未然)＋「ね」。文脈で。

---

Q94. 「ざり」を識別せよ。

物のあはれを解せざりしを後悔す。

答え：連用形 解説：「ざり」＋過去「き」連体「し」＋準体「を」。

---

Q95. 「ず」を識別せよ。

我れ歌詠ま~~ず~~して、なほ古典を愛づ。

答え：連用形 解説：「ず」＋「して」。

---

Q96. 「ぬ」を識別せよ。

物言はぬを尊しとす。

答え：打消連体形 解説：「言は」未然＋「ぬ」＋準体「を」。

---

Q97. 「ね」を識別せよ。

心ある人にあらねば、これを解せず。

答え：打消已然形 解説：(再掲・確認問題)「あら」未然＋「ね」＋「ば」。

---

Q98. 「ざる」を識別せよ。

行かざるを選ぶ。

答え：打消連体形 解説：「行か」未然＋「ざる」＋準体「を」。

---

Q99. 「ず」を識別せよ。

風吹かず波荒からずして、舟出づ。

答え：連用形 解説：「ず」＋「して」。

---

Q100. 「ず」を識別せよ。

行く川のながれは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。

答え：打消「ず」連用形「ず」＋接続助詞「して」 解説：下二段「絶ゆ」未然形「絶え」＋打消「ず」連用形「ず」＋接続助詞「して」。鴨長明『方丈記』冒頭の有名な一節。「行く川の流れは絶えることなく、しかも元の水ではない」。連用形＋「して」で「～なくて／～ないで」の意。

---

入試レベル /20

---

合計 /100

---

## あとかぎ

「ず」の識別の核心： - **直前は必ず未然形** - **直後** を見る（体言→連体、ば→已然、文末→終止、して→連用） - 「ぬ」「ね」は活用形が違うだけで意味は同じ「打消」

打消の助動詞「ず」は古文の最頻出語。活用変化を完全に暗記すること。

---

**著作権**：個別指導塾フィット / 中本裕太

---

© 個別指導塾フィット / 中本裕太 <https://kotennosensei.com>